

## 「ご挨拶」

「希望」と言う言葉に思いを込め、これほど熱く語られ、またそのことが相応しい時代はかつてなかったと思う。「目の前の困難」、「不透明な将来」、そして突然の「破綻」、明日と言う日すら、何の保証もない日となり得る。人々はその絶望に近い大きな「困難」に立ち向かうとき、「希望」と言う「あかり」を灯す。その人びとの祈りに似た「灯り」を力強い「炎」に変えるのは誰か。

アフリカ、ケニア共和国、「戦士の村」の異名を持つコゲロ村のルオ族の父親と、かつては南軍の大統領の一人の血を遠縁に持つカンザス州出身の敬虔なプロテスタントの母親から生を受け、Barack（祝福された）Obama（燃える槍）の名を持つ人、バラク・オバマ「米国の希望の星」新大統領は強く訴えて言う。

克服すべき課題に果敢にチャレンジし変える力“CHANGE！YES，WE CAN.”に力を込めてその著書“The Audacity of Hope”（逞しく大胆な希望）で分断の時代への挑戦と新しい融和への変革（CHANGE）を力強く訴えている。「グローバル」と言う言葉のもとで人々は本当に未だ目覚めることなく「欲望」がもたらす分断の長い夢から覚めず彷徨っている。特に「心の難民だ」。

米国はこの「社会経済の迷走」の中、新しい大統領の指導力で新たな地球規模の大きな課題に挑戦し、環境改善を政策の軸の一つに、新たな世界へ「チェンジ」することを目指している。「グリーン・ニューディール」、巨大船団、米国の新たな船出である。

大統領就任式での言葉に世界中の多くの人々が力強い明日を期待したのは確かだ。「私たちの今のエネルギーを使うやり方では敵を強大にし、我らの星地球を脅かしていることが日増しに明らかとなりつつある。」、そして「... 温暖化する地球の脅威への巻き返しを図る。」と米国の再生への決意と国民の不断の努力を呼びかける中で、「... 太陽や風そして大地のエネルギーを活用し、車の燃料また工場の稼働のために利用する。」と自らの政策を米国の再生の柱の一つに据え、そのために人々の協力が必要なことを説いている。そして世界中の全ての人々に世界が変われる節目の今をしっかりと捕らえるよう訴えている。新しい指導者の誕生だ。「アフリカを緑の大地に」のスローガンで「グリーンベルト運動」の指導者、日本語「MOTTAINAI」の世界への紹介者、そして「ノーベル平和賞」で知られるワンガリ・マータイ女史との親交も深い新指導者への期待は熱い。

大統領就任式の少し前の1月7日、米国の代表的な航空会社コンチネンタル航空が藻類、落葉低木のジャトロファから抽出したバイオ燃料を搭載した双発機(ボーイング737-800型機)でのテスト飛行をヒューストンで行い成功した。「バイオ燃料を第2エンジンに積んだ旅客機は滑走路を静かに離陸し、晴れ渡ったテキサスの青空に吸い込まれていった。」記者の熱い思いが伝わってくる。

私共も共に歩むべき時だと思う。当社も、ガラス製造の場でリサイクル、省エネルギーに取り組んでいるが、グローバル社会の一員として役割を果たして行きたい。喫緊の課題である地球温暖化の切り札の低炭素社会実現に向けて今や、一人ひとりが「知る時代」から「行動の時代」に入った。「炭酸ガス減量作戦」だ。私共もささやかではあるが、この小冊子の発刊と共に生産工場でのチャレンジを続けてゆきたい。

“CHANGE！YES，WE CAN.”

文化の欄は、目に見えない「時」を刻む「ガラス」とその「ガラスの仲間たち」を話題にした。ともすれば足元を見失いがちな我々にとって、「時」と言う大切な基準をもう一度見直すことで確かな足取りを取り戻す縁となればと思う。

この話題では「科学博物館」(ロンドン)所蔵の大航海時代の砂時計にお出ましを願った。

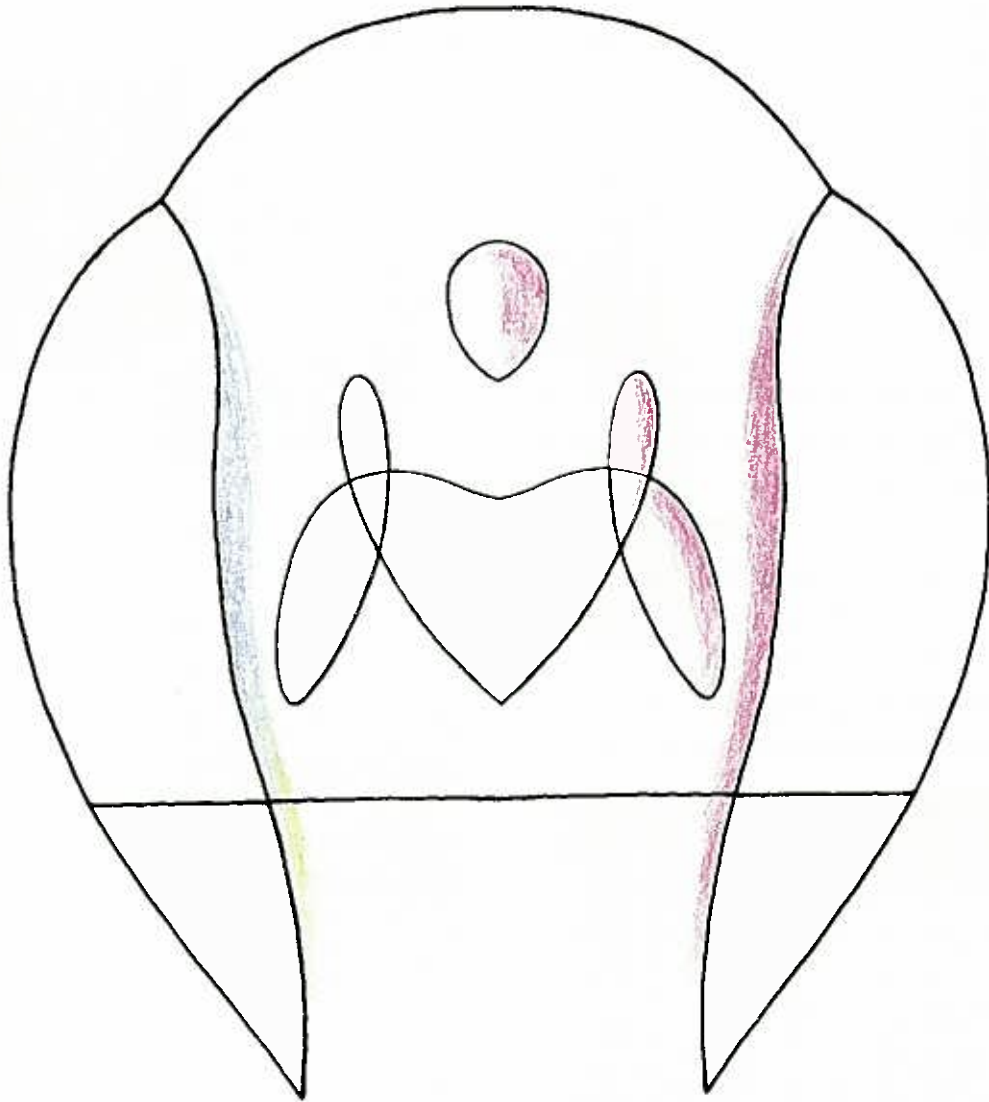
クォーツについては「セイコー時計資料館」の秋沢正康氏から多くのアドバイスや写真の提供を受けた。また日本では数少ない砂時計職人の金子 實氏からは砂時計の心臓部に当る縊れの「蜂の腰」のお話を伺ったり、製作中の写真を提供いただいた。「仁摩サンドミュージアム」の檜尾政雄氏からも多くの情報提供をいただいた。ご協力いただいた皆様に感謝したい。

世界のセレブへのインタビューは米国の環境先進地域でもあるカリフォルニアのソノマ溪谷のワイナリーの経営者の一家をお母ねしての取材となった。1900年代から3世代に引き継がれたジンファンデル葡萄のワインと気さくで明るいイタリア系美人セレブをご紹介できる素敵な記事となった。

環境についてのテーマは前号に引き続きドイツの環境都市カールスルーエとミュンヘンの取材でバイオマス・コンポストの仕組みと粗大ゴミのリサイクルショップの紹介である。

表紙では「花の女王」である「バラ」の「香り」をヴィーナスに捧げた。

## 何度も生き還る地球の恵み、ガラス。



「人は誰でも、鏡に正面の顔を見ている方が多いものです。三面鏡はいちばん身近な『他者の目』として、女性の身だしなみを照らしてきましたが、その存在は弱々しくしてきます。三面鏡の復活。それは新しい時代にふさわしい機能を備えた鏡によって、初めて『宝物』ではなくなるでしょう。」

「バラ」のDNAは強靱で奔放だ  
ヒマラヤが故郷と『うこの花は  
七千万年の時空を超えて  
北へ南へ飛翔し

「花」と「香り」を世界中に運び続ける

「ダマスク・ローズ」は

遥かペルシャの「バラ」の血統を引く

「香りのバラ」の末裔

かつてはムスリムの王「スルタン」に仕え

ブルガリアの地で花開かせ、

カザンラク「バラの谷」に根付き育まれて

今は「世界の香り」

乙女の摘む籠いっぱいこの花が

魅惑の「香りの滴」を生む

この「花の香り」は

強靱で奔放な「バラ」のDNAが誕生させた

二十万種の「バラの仲間たち」と共に

「香りの世界」を支配する

その「バラたち」の世界に君臨するのは

かつてはナポレオンの王妃で

南仏「マルメゾン」の館の主でもあった

「バラの女王」、ジョセフィーヌ」

そしてその女王に仕えた

宮廷画家の「ルドゥーテ」は「バラの召人」

残された169枚の「バラの銅版画のコレクション」

それは「マルメゾン」の「バラの紋章」だ

ピバ、「バラ」の末裔たち

ピバ、「バラ」の名を冠する「華やかな人々

ピバ、「調香師」たち

ピバ、世界中の「バラ」の「庭師」たち

ピバ、「バラ」を愛する世界の女性たち

# 永遠の時の使者、砂時計。

## 「ガラスたち」の紡ぐ「時」がたおやかに流れる



**A** 「時」を計ることはなかなか容易でなかった。生活に根ざした「季節」と言う長い「時」を計ることは農作業を主体とする社会では必須であったため、「星の運行」を大切な拠所とした。やがて日時計、水時計などが一日を刻むツールとして使われたが、天候や使用場所の制約が少なく、移動する人にとって、もっと簡便なツールとして「砂時計」が広く受け入れられるようになったようだ。

「砂時計」の発祥の地は定かでないが8世紀頃のイタリアとも中国とも言われている。ガラスの容器を上下に繋ぎ合わせ、砂を詰めただけのシンプルなフォルムで今もその構造は変わっていない。この誰もが知る「時の使者」は人々の過去、現在、未来を貫きながら今日なお、「うつろう時の片鱗」を「ガラス」と「砂」の巧妙な営みで見せながら紡ぎ続けている。

**ス** ペインのセビリヤの港をトリニダー号を旗艦とする5隻の船団が総勢237名の乗組員を乗せ、祝砲を放ちつつ船出した。

1519年8月10日月曜日朝の出来事であった。フェルナン・デ・マガリャンイス(マゼラン)はポルトガルの下級貴族の出身であった。ポルトガル国内では承認されなかった当時発見されたばかりのアメリカ大陸を廻り太平洋を横断、西回り海路でのモルッカ諸島への探検航海が漸くスペインに認められての出発であった。既にコロンブスによる新大陸、バスコ・ダ・ガマのインド航路、アメリカの新大陸航路、バルボアの太平洋発見など歴史的な偉業が世に知られつつあった。

この時代、羅針盤・大砲・銃・刀剣・食料・水と共に「砂時計」が航海には必需品であった。マゼランは18個の砂時計を準備しこれを航海中に利用した。航海中、睡魔や寒さに耐えきれず、当番の中には砂が落ちきらないうちに時計を反転する不埒なものもいて、「砂を食べる」と呼んで成める言葉もこの時代ならではのものだ。この頃、東南アジアの小列島、モルッカ諸島は香辛料の産地として知られており、モスリムの覇権が未だ強く及ぶ世界であったが、交易権の争奪は海軍力を伸張させつつあったポルトガルとスペインの間でも熾烈を極めていた。

マゼラン達一行は新しい航路の発見がモルッカ諸島への安全な航海を約束するものと信じての旅立ちであった。「大航海時代」の必需品の「砂時計」は未だ粗末なものであったが、それでもこの時代の「時」を刻むには十分な仕掛けで、30秒、30分、1時間、4時間などの時を刻んだ。

**そ** れから約500年が経った今日、21世紀の我々の時代では「時」を計るツールの発展は目覚しく、1秒間に32,768回の「水晶」の発振を利用する「クォーツ時計」が「砂時計」やその後現われた「ゼンマイ時計」にとって替わって1ヶ月に数秒の誤差の「時の物差」を

実現している。だが「砂時計」は今日でも健在だ。航海時代のような必需品のツールではないが、コンピューターの中では待つことの「辛抱」のマークとして、キッチンの中で、コーヒーや紅茶のグルメのためにあるいはまた、恋人達の物語の中でも主人公の見えない「時」の番人として活躍している。そしてまた、砂時計製作の「技」と「伝統」も健在だ。

現代の「砂時計」職人は上部と下部を繋ぐ砂時計の心臓部とも呼べるノズル部の「蜂の腰」の製作に心血を注ぐ。その出来栄が砂時計の「精度」とガラス容器としての「美しさ」を決めるからだ。

**だ** が近代的な砂時計は時には巨大でかつ精密だ。島根県仁摩町にある「仁摩サンドミュージアム」は1990年に建設されたものだが、ガラス張りピラミッドのように聳える建造物の中に高さ5.2メートルの吹きガラス容器と、1トン(6,400億粒)の砂を用いたコンピューター制御の巨大な1年計「砂時計」が静かに「時」を刻んでいる。これは3年に及ぶ日本人とドイツの職人の「砂」とガラスとの闘いの賜物である。砂の選択、洗浄、粒度を揃える篩い分け、それは「鳴り砂」と言う「時の化身」を生む作業であった。ドイツのガラス職



人の挑戦はこの巨大なガラス容器に命を吹き込み芸術品に仕上げる大仕事であった。小型の砂時計同様に「蜂の腰」と呼ばれる「くびれ」のノズル部の設計と製作は「時の流れる関門」であり、その内径(0.84mm)を精巧に仕上げる作業は本体の芸術的なガラス容器部製作ともども2年間に及ぶ苦心の製作作業の賜物でもある。



**さ** て、「時」を航海時代に戻そう。1522年9月6日土曜日、1隻の探検船がセビリヤに到着した。祝砲を放って出港したあの船団の1隻、ビクトリア号であった。1隻の離脱、提督マゼランと3隻の僚船を失った帰還であった。奇しくもマゼランが携行した「砂時計」の数と同じ18名が無事帰国できたのみで壮絶な苦難の探検航海であった。船には交易で得た「金」に匹敵する当時の高級香料の「丁香」が満載されていた。その後、帰国者の一人、イタリア人航海記録者ピガフエッタが「マガリャンイス最初の世界一周航海」を発表した。このことによりマゼランの世界一周の達成が確認されることとなった。3年と27日の航海で、日付変更線の概念の未だ無い時代「1日のズレ」が生じていた。

「時」を計るツールの発展は目覚しく、1秒間に32,768回の「水晶」の発振を利用する「クォーツ時計」が「砂時計」やその後現われた「ゼンマイ時計」にとって替わって1ヶ月に数秒の誤差の「時の物差」を

A…大航海時代の砂時計(科学博物館・ロンドン) 「丁香」は古来よりスパイスの中核的存在。  
 B…「蜂の腰」制作(金子硝子工芸) 香もつよく中国では「百里香」、正倉院にも保存されているが、今日でも肉料理によく使われるスパイス、菓方で殺菌剤の役割を果たしている。  
 C…1年計砂時計(仁摩サンドミュージアム)



## 三面鏡ひと模様

「化粧はシンプル志向。身だしなみの決め手は鏡です。」サンフランシスコの女性（51歳）  
 今回は、カリフォルニア・ワインを代表する産地ソノマバレー、そこでワイナリーを家族経営しているマネージャー宅を訪ねてみた。

サンフランシスコを舞台とした映画にヒッチコック監督のサスペンス「めまい」がある。高所恐怖症になったジェームス・スチュアート扮する元刑事が、キム・ノヴァク扮する友人の妻を追跡していくことによって、観客をサンフランシスコの街中へ引き入れていく。映画にも登場したサンフランシスコ最古の美しいスペイン教会ミッション・ドロレスに行こうとバート(BART ベイエリア高速鉄道)、これは1974年に造られた電車で、切符の発売から改札と運行管理まで、すべてコンピューターで管理されている交通システムだが、この構内に入ろうとした時



「RECYCLE: BE A GLASS ACT!」・ガラスが決め手の表示(写真)が眼に飛び込んで来た。この表示の背景には、サンフランシスコ市の環境姿勢が存在している。

ペットボトルをやめて水道水を飲もうという呼びかけや、生ゴミをコンポスト化しオーガニック肥料として、世界的に知名度が高いカリフォルニア・ワインづくりに提供するなど、意欲的である。

今回は、そのカリフォルニア・ワインを代表する産地ソノマバレーでワイナリーを家族経営しているマネージャー宅を訪ねた。

ドアを開けて出迎えてくれた51歳女性、瞳が明るく大きく、髪はブラウンで、笑顔がとても素敵なイタリア系美人。第一印象はさわやか、気取らない雰囲気。今日は自宅で事務処理業務である。趣味はヨガ、週四回通い、子供は二人で高校生の女の子と小学校六年生の男の子の家族四人。性格は人の面倒をよく見るタイプだと発言するように、選挙で選ばれPTAの会長を務めている。

自宅は1890年代のビクトリア・スタイル。天井が高く、その四隅は丸く鋭い模様がほどこされ、鴨居にもデザインがされている100年以上経過の一戸建て。家具もアンティーク調で統一されている。

ここに14年間住んでいる。化粧室は階段を上った突き当たり。曲がり階段の赤いじゅうたんがビクトリア・スタイルとマッチしている。化粧室に入ると鏡が洗面台正面と、後壁にもある。前面の洗面台鏡はもともとついてしたが、後ろの鏡は追加設置した。髪のパックスタイルを確認するためであるが、これはなかなかのアイデアである。

鏡は部屋を大きく見せる効果があるから好き。各部屋に鏡があって、出かける前の全身チェックは洋服ダンスの鏡です。化粧はシンプル志向。若い時はずいぶん多くのブランドを使い分けたが、今は絞って



ダウンタウンのデパートで買っているといいながら、廊下の奥から赤ワインを持ってきた。「Elaine Maria」の2002年のものである。

ラベルに「私も家族は、1900年初めにイタリアから移民して以来、3世代にわたってソノマ・カウンティにおいて、ジンファンデル葡萄を大事に育て、エレガントで、深い味わいのあるワインを小規模で手づくりしている」とある。ジンファンデル品種は、カリフォルニア独自のミステリアスな葡萄として知られ、ここの気候風土に適合し、濃厚で独特な果実風味を特徴として評価が高い。

最後に、日本のイメージについてお聞きすると、女性がおしゃれ、きれい好き、テクノロジーがすすんでいて世界中から肯定的に受け取られている国だ、と語る笑顔がすばらしい。「めまい」の街サンフランシスコには素敵な女性が住んでいる。



### コラム 水晶—「時」を変えた立役者—

昨年の北京オリンピック競泳女子200m個人メドレー準決勝で、日本とハンガリーの選手が

2分12秒18の同タイムでゴールする珍事が起き、二選手だけの再レースが行われた。

古代オリンピックでは「相対的な時間」で順位を決められたが、近代オリンピックでは100分の1秒までの「絶対的な時間」が要求されている。この「時の計測」精度を解決したのが石英材料である。水晶(石英)の結晶に

電圧を加えると正確な振動を起すことを発見したのは、マリー・キュリーとともにノーベル物理学賞を受賞したピエール・キュリーで、1880年のことであった。この原理を応用し、1969年に日本の時計メーカーが世界で最初にクォーツ(水晶発振式)腕時計を商品化し、「1か月で5秒しか狂わない」と発表した。

ニューヨーク・タイムズは「超高精度の水晶時計に日本が完勝」と報じた。「時」が「時計」に代わった瞬間であった。



天然水晶



世界初のクォーツ腕時計

参考：1969年発売の世界初のクォーツ腕時計45万円に対し、大衆車(カローラ)は42万円だった。



# 「市がリサイクルショップを開店！ 世界一住みやすい都市は、粗大ゴミにもやさしい。」

環境先進国ドイツのごみ処理実態（2）

オバマ米大統領は、風力や太陽光など新エネルギー・環境分野で、次世代産業を創造する「グリーン・ニューディール政策」を発表した。現在、この分野の世界先進国はドイツである。この背景にはドイツ国民一人ひとりの環境に対する意識が影響しているが、それを証明するのがドイツ人の日常生活におけるゴミ処理方法である。

前号ではドイツのフライブルグ市の資源ゴミ処理と、アウグスブルグ市のDSD社（デュアルシステム・ドイツ）について紹介したが、今号では同じく南ドイツに位置するカールスルーエ市とミュンヘン市の実態を紹介したい。

## カールスルーエ市の生ゴミコンポスト活用

ドイツの家庭には資源ゴミ、生ゴミ、残余（一般）ゴミの三つのゴミBOXがあり、その置き場は外から見えないよう、美観上の配慮がなされている。カールスルーエ市によって回収された生ゴミは、中心部から離れた、東部の高級住宅地を通過して、山の上に位置している発酵処理場に運ばれ処理される。処理場の周りには以前に生ゴミを焼却し埋め立て処分されたところで、今では羊が放牧されている緑の牧場となっていて、周辺一キロ以内に家屋はない。生ゴミ発酵処理場の運営も市で、最終的にコンポスト（堆肥）にされる。そのプロセスは、生ゴミ搬入プールに収集車がゴミを投入すると、プールの底が移動床になっていて、奥に動き機械で粉碎し、水でかき混ぜ、プラスチックなどは浮遊物として、砂利・金属・ガラスなどは沈殿物として取り除かれた後、メタン発酵タンクで発酵処理しコンポスト化される。このコンポストは、市民に無料で提供されるほか、埋め立て地の表土として利用しているが、将来は市議会の承認を得て一般に販売したい意向をもっている。



## ミュンヘン市の粗大ゴミ処理販売

世界で最も住みやすい大都市といわれているミュンヘン市。ここでもゴミ処理は徹底している。市のゴミ処理事業局の運営は、100%ゴミ処理収集料で賄う経営体となっていて、利益が出ると料金を下げ、赤字が発生すると料金をアップさせる。従業員は1300名、全員市の職員である。ミュンヘン市の特徴は、粗大ゴミをマーケティングしていることである。市内に12か所設置されている粗大ゴミ置き場に持ち込まれた中から、販売可能と思われるものを、市の南部にあるホール、ここは以前の事業局の事務所だったところだが、ここに運び、展示し、8年前から販売を始めた。営業時間は、平日が10時30分から12時30分と、15時から18時まで。土曜日は9時から14時まで。平日の来場者数は300人から400人。土曜日は1000人程度来場する。ここで働く従業員は7名、まだ若い責任者の判断で販売価格を決めるが、実際の価格を見てみると、立派なソファで40ユーロ（＝5320円、1ユーロ133円換算）、一般的には4ユーロから10ユーロのアイテムが多く、結構販売成績はよいらしい。PRとして、簡単なパンフレットを市役所においているだけだが、ホールに来て実物を見るまで、何が展示されているか分からない「お宝発見ショップ」的な楽しさがあるので、来場者は年々増え続けている。資源活用のグッドアイデアですばらしい。



**興亞硝子株式会社** <http://www.koaglass.co.jp/>  
 本社 〒132-0035 東京都江戸川区平井1丁目25番37号 TEL.03(3684)1211(代)  
 営業本部(直通電話) TEL.03(3684)2705(代)  
 大船工場 〒251-0013 神奈川県横浜市中区小23番 TEL.046(23)5421(代)  
 大田工場 〒272-0126 千葉県市川市千鳥町2番 TEL.047(397)4101(代)  
 大阪営業所 〒541-0041 大阪府中央区北浜3丁目1番14号 TEL.06(6229)1619(代)  
 茅ヶ崎工場ビル3階  
 上海昌隆硝子有限公司 〒201800 中国上海市嘉定区马陆镇曹路5号 TEL.86(21)59155665(代)

今回「VIN」発行に当たり多くの方々にご協力を頂きました。  
 取材協力 セイコー時計資料館  
<http://www.seiko.co.jp/nihongo/horology/>  
 金子硝子工芸  
<http://www.sandlock.co.jp/>  
 仁摩サンドミュージアム  
<http://www.sandmuseum.jp/>  
 参考文献 「時と時計の雑学事典」  
 鎌田一朗著 筑ワールドフォトプレス